

第三十三回 「全日本中学生水の作文コンクール」

広島県優秀作文集

平成二十三年

広島県土木局

目次

優秀賞

水を守る

近畿大学附属東広島高等学校・中学校

二年

卜部

知子

水の大切さ

近畿大学附属東広島高等学校・中学校

二年

田中

拓海

生活を支える水

近畿大学附属東広島高等学校・中学校

二年

松浦

凧沙

入選（応募順）

日本人と水

広島市立東原中学校

二年

岡嶋

龍也

生命の源く水く

広島市立東原中学校

二年

新谷

優姫

水と私達の生活

近畿大学附属東広島高等学校・中学校

二年

菊川

佳菜

水のありがたさ

近畿大学附属東広島高等学校・中学校

二年

北川

春菜

水の問題への貢献と人々の支え

近畿大学附属東広島高等学校・中学校

二年

小山

真澄

水と生きる

近畿大学附属東広島高等学校・中学校

二年

坪島

幸生

「水」の大切さ

近畿大学附属東広島高等学校・中学校

二年

村上

航己

優 秀 賞

水を守る

近畿大学付属東広島高等学校・中学校 二年 卜部 知子

地球は「水の惑星」と呼ばれる。今では蛇口をひねれば普通に水が出るし、生活において水を使わない日はないだろう。私達人間は水を当たり前の様に考え、水をふんだんに使いたがる。水があるという事のありがたさを忘れがちな私達だが、水なしでは生きられない事は分かっている。

地球温暖化による水の問題としては、洪水、干ばつ、ハリケーン、海面上昇、堤防の決壊等が挙げられる。これを知れば、問題の深刻さを痛感するだろう。気候は水の姿そのもので、水の問題に直結するのだ。水は空と海と大地を巡る。水は人間の身体の三分の二を占めるが、それは地球でも同じ事だ。地表の三分の二を覆うのもまた、水なのだ。この水がなくなれば、生きて行く事は出来ない。

では、私達人間は、水の為に何をして来たのか。水は地球全ての生物が共有する資源であり、かつては尽きる事などないと思われ、水の保全を誰も考えはしなかった。しかし時代と共に考えは変わり、人間は水の保全をして来た。

例として、世界のコカ・コーラシステムでの活動を挙げる。コカ・コーラシステムでは、水源保護領域における長期的な水源保護プロジェクト『ソース・ウォータープロジェクトクション』を全世界で推進し、水源保護や水の効率的利用、排水管理等に取り組んでいる。

この様に、世界的に水を守る活動が進められている。水の大切さを知っているからだ。

水を守って行く為に、私達が身近で出来る事として、節水がある。蛇口をひねる度に、お金が排水溝に流れて行くという様に、水をお金に考

えてみれば良い。こうイメージすれば、節水に努めやすいだろう。

節水の方法として、二つ挙げる。一つは、基本だが、水を流したままにするのをやめる事だ。とにかくこまめに蛇口を閉め、効率的に水を使う事で、簡単に節水出来る。もう一つは、風呂でのシャワーの使用を極力ひかえる様にし、更に風呂の残り湯も利用する事だ。風呂の残り湯の利用法としては、洗濯、トイレ等がある。洗濯に残り湯を使えば、節水になる上に、湯の方が汚れが落ちやすい為、一石二鳥である。トイレは、家庭で使用される水の二十八パーセントを占めており、残り湯をバケツ一杯流すだけで良いのだから、節水の効果は大きい。

人間が節水を心がけ、身近に出来る小さな積み重ねをして行く事は、とても重要な事なのだ。

水の為に出来る事として、水の保全や節水を挙げたが、私達がまず初めに考えるべき事がある。それは、この地球の姿をきちんと見つめ、共有の資源を守る心を持つ事ではないかと私は考える。かけがえのないものは何なのか。自分達は何に生かされているのか。それを知る事が大切なのだ。

水の大切さ

近畿大学付属東広島高等学校・中学校 二年 田中 拓海

水は、ぼくたちにとってかけがえのない資源です。水は飲んだり食べたりすることに使われるだけでなく、洗濯、風呂、トイレ、掃除など、いろいろなところで利用しています。

さらに農作物を育てたり、工業製品を作ったり、発電のためにも水を利用しています。

つまり、人間にとって、水は生きていく上でなくてはならないものだと思います。そこで、水の大切さについて考えてみることにしました。アフリカの貧しい人たちの住む地域には、電気、ガス、水道が通っていません。水を手に入れるには長時間もかけて歩き、泥水がたまっような池でしか水をくむしかありません。

それに比べて、ぼくたちの生活は毎日、不自由なく水を使えます。それは、ぼくにとっては当たり前のことでごくごく当たり前のこととを感じました。

今、アフリカの貧しい人たちのような生活をしている人は、世界中にたくさんいます。ぼくは、いつも不自由なく、きれいな水が使えることに感謝してこれからは、水をもっと大切に使おうと思いました。

これまで、水について人間だけで考えてきましたが、水が必要とする生き物は人間だけではありません。動物はすべてそれで、植物にも水が必要です。さらには、水の中でないと生きていけない生き物もいます。水は生命の源だと言えます。

ところが今、そんな水が人間の手によって危険にさらされています。開発での水源（森林、湖、沼、川）の破壊による水不足や川や川が直接汚染される水質汚染などによってかけがえのない水資源が減ってきて

います。

そこで、ぼくたちが今、自分のできることをやらなければいけないと思います。そのためには、水が大切なものであるということを考え、大切にすること意識をもつことや、それをいろんな形で実行することが必要です。

例えば、汚れた食器はぶき取ってから洗うようにする。石けんや洗剤の使用量を減らす、植物の水やりに米のとぎ汁を使う、風呂の残った湯を洗濯に使う、シャワーなどで水を出しっぱなしにしないなどです。

一人一人できることは少なくても、みんなが実行すれば大きな力となります。

先日、校外学習で行った温井ダムでは、こう水を防いだり、発電をしたり、水道水を作っていたり、水質を守ったりしています。ダムは、人間の生活や生物が生きていくためにかかせないものです。

ぼくは、ダムを見学して、自分たちだけでなく他の動物や植物もみんなが気持ちよく生活できるように水を守っていくべきだと思います。

生活を支える水

近畿大学付属東広島高等学校・中学校 二年 松浦 凧沙

私の住む広島市は、「水の都」と呼ばれるデルタの街です。市の中心部を六つの川が流れ、昔は川船が多く行きかかっていました。今でもその名残の雁木と呼ばれる場所が残っています。

それらの川と私達の生活は、深い関係があります。河川敷で散歩をしたり、ジョギングをしたりする人もいたり、釣りや遊覧船を楽しむ人もいます。しかし、何よりも一番関わりがあるのは、生活用水を川から取り入れていることだと思います。

私達は暮らしの中で、台所やお風呂、トイレなどでたくさんの水を使っています。その量は、一日一人当たり二五〇リットルもの水を使っているそうです。

二〇一一年三月十一日、東日本大震災が起こりました。津波で多くの人々が流されて、たくさん犠牲者が出ました。なんとか生き残った人達も、ライフラインがなくなり、不自由な生活を送っています。

また、何日も行方不明者の捜索やガレキの撤去の活動をしている自衛隊員の人達は、お風呂にも入らず、東北の人達のためにがんばっている姿を見て、私は驚きました。重労働が続いて、体力の限界が近づいても、お風呂に入って体の疲れをとることができないことは、とてもつらいことだと思います。

私達の生活を支えるライフライン。水、電気、ガス…。当たり前の様に使っていたものが突然使えなくなる。給水車による給水や、電気のない生活をテレビで見ると、それと同じことが私の身に起きたら、どのような生活が続けることができるかと思えます。私は今まで水の大切さに気づき、節水をする必要があります。

そこで、どのようなことに気をつければよいのかインターネットで調べてみました。インターネットには次のようなことが書いてありました。

- 1、風呂の残り湯を洗たく、そうじ、まき水などに再利用して約100ℓ節水できる。私の家は、洗たくは風呂の残り湯を使っているけど、そうじなどはあまり使わないので、今度からはやってみたいと思いました。

- 2、食器を洗うとき、ためらいをして一日約80ℓ節水できる。私の家では、家族全員でご飯を食べられることが少ないので、まず、ためた水にそれぞれがつけ置きしておくことが良いと思いました。

- 3、洗顔をするとき、洗面器に水をためて洗って一回約11ℓの節水ができる。私は、歯みがきや洗顔をする時、少しの時間だからって水を出しっぱなしにしていたので、気をつけなければいけないと感じました。

また、上水だけに興味を持つのではなく、下水にも注目しなければいけないと思います。私達は、使った上水に対しては、ほぼ同じ量の排水をしているといわれています。自分達の出す排水が、川や海に流れていき、環境に大きな影響を与えていることを知って、自分にできることはないか考えました。

生活の中から出る排水は、生ゴミを流さない、油をふきとる、洗剤を入れすぎないなど、自分ができる排水の始末の仕方や、水の環境をもっと良くするための工夫をしていきたいと思いました。

生活と結びついている水は、私達の健康な暮らしを支える大切なものだと感じました。

日本人と水

広島市立東原中学校 二年 岡嶋 龍也

僕達の住む日本は水道をひねったら水が出て、飲めるという水に恵まれた国です。でもそれがあたりまえだと僕は思っていました。

けれどそれは日本だからできた事だと知りました。ヨーロッパでは水はとても高いそうです。アフリカや雨がふらない国では飲み水はどろ水だそうです。これをきくと日本はほんとうに恵まれていると思いました。これをきいた時ほくほく。

「ヨーロッパなんかは高くても水はできるからいいと思うけど、アフリカや雨のふらないところはぶつうの水ですら飲めないなんて、すごくかわいそう。」と思いました。こういふ国を助けたいと思いました。

僕はこのいふ国をたすける方法を考えました。1つは日本は不景気だけれど水のねだんを高くして、その高くした分をそっくりた国へきふして水を買ってもらったり、井戸を作ったりして水を飲めるじょうきょうを作るといふ方法。2つめは、日本と同じような川をつくりにいっていいかんきょうにするといふ方法です。どちらもとても高いお金がかかるけれど人が何人も死ぬよりはいいと思います。そして日本人にこういふことをきいてもらって、水の大切さをもってもらいたいです。そしてムダに水をつかうのをやめてもらったらエロいかなると思います。

生命の源（水）

広島市立東原中学校 二年 新谷 優姫

みなさんは水についてどのように考えていますか。水は私達が生活していくうえで、とても重要な役わりを果たしています。例えば私達の体は六十〜七十パーセントが水分でできていて、もし水をまったく摂取しなければ人は三日で死んでしまいます。また、水は洗濯や入浴、炊事など私達の生活には必要不可欠です。

しかし最近では水質汚濁などの環境問題によって飲料水への影響が心配されています。みなさんも、牛乳や天ぷら油、みそ汁などを台所の流しへ流してはいませんか。もし天ぷら油四十ミリリットルを流したとしてうすめて魚がすめるようにするには、ふるおけ約四十杯、なんと一万二千リットルも水が必要になります。このように家庭から始まる水質汚濁もあるのです。また、年々水の使用量は増え、雨量が少ない年には水不足になることもあります。

では私達がこれから暮らしていくうえでどのようなことを心がければよいのでしょうか。

まず、第一に節水を心がけることです。例えば水を出しっぱなしにしない、お風呂の残り湯を洗濯や掃除に使うなどほんの少しのことでも積み重ねていくうちにとてもたくさん水を節約できます。

次に水の汚染を防ぐ方法です。流しに天ぷら油などを流さないようにしたり、下水道の普及率を高めたりすることなどがあります。

このように私達は生命の源である水を大切にし、限りのある資源を有効に使うしていくことが大切なのです。そのためには一人一人の水に対する意識を強めていくことが重要となっていくのではないかと思います。

水と私達の生活

近畿大学付属東広島高等学校・中学校 二年 菊川 佳菜

今年の春、東北でマグニチュード九・二の大地震があった。当時、私はテレビで津波の発生を見ていた。津波は、病院からマンションまで大きい建物、そして大ぜいの人々をさらっていった。その映像を見るたびに私は水の恐しさを実感した。水というものは、怖いものでもあるが、人類に欠かせないとても大切なものである。

現在、この地球では四分の三が水になっている。この数を多いと考える人も少なくはないだろう。しかし、この中の九十七パーセントは海水で三パーセントが淡水なのだ。つまり、すぐにも飲み水として利用できる水は全体のわずか〇・〇三パーセント程度ということになる。このことから、水は大切な資源の一つだということが分かるだろう。

しかし、この少量の水が更にたいへんなことになっている。これまでの過去五十年間に全世界の水の消費量が四倍にもなっているのだ。この状況がこのまま続くと、2050年までに世界人口の四分の一が慢性的もしくは頻発し、水不足の中で生活しなければならなくなる。この原因として、人口増加のほかに、ステップという大草原地帯や大砂漠の拡大などが危険因子とされている。中でも海や河川の汚染は大きな原因の一つである。

世界では、このような海や河川の汚染によって苦しむ人々もたくさんいる。汚れた水で亡くなる子供達は実に、一日4000人である。そして約八億6000万人もの人々が安全な水を飲むことができないのである。

水は生命を維持していくために大切なものでもある。人間の体は水分が約六十パーセント必要である。しかし、水が無くなるとうつらうか。

考えつくと思う。水は高温調節ができるという、すぐれた面もある。更に蒸発した熱を奪うこともできる。その具体例が汗である。汗は流れることによって体中の温度を下けているのだ。このように水は、私達人間が生きていくためにも必要なものなのである。

では、このような大切な水を守っていくにはどうしたら良いのだろう。私は、水を節約しなければならないと考えた。まずここでおさえておかなければならないことは、節約しなければならないのは世界で最も乾燥地帯であるとされている国々だけではないということだ。むしろ、北米やヨーロッパ、アジアの先進諸国が良識をもって水を上手に使う必要があると思う。結局のところ水を一番使っているのは、先進国だからだ。先進国の人々はシャワー、車の洗車などたくさん水を使う。それに付け加えて、洗車をする仕事や洗たく機などの水頼りの産業が多くある。このようなことから、先進国の人々は水が公共財産であるという認識に欠けていると感じた。

一方、それに比べて発展途上国では、水に苦しんで亡くなる子供や安全な水が飲めない人々がたくさんいる。中には、水は飲めるが毎日一口や十キロ、長ければ一日かけて歩かなければ水が手に入らないという人も大ぜいいる。そのような人のことを考えながら水を使うことが大切だと思う。

節水とは、とりわけ水を大切に扱い、よこさないことであって、つまり、私達が身近にできることは、洗剤の使用を減らすことや、水道の流しっぱなしをやめるなど細かいことが多い。そういう細かなことからやっていくことによって、水を節水できると思つ。

水という資源は限りある資源であり、みんなで協力して守っていかねければならないと思う。こういうことについて、日本や世界は使用量、処理法なども規制し、かんりする必要があると思う。これからは、自分のできることをしっかりと考えて水を大切にしていきたい。

水のありがたさ

近畿大学付属東広島高等学校・中学校 二年 北川 春菜

私達の体は五十〜七十パーセントは水で満たされています。体のほとんどが水でできていると言っても過言ではありません。水無しでは約五日で命を落とすと言われ、食べる物が全くななくても、水と睡眠をとれば二〜三週間生きていられると言われています。このことから水は、私達人間にとって生きる源であり、生活していく上で不可欠なものです。また、人間だけでなく動物や植物も水なしでは生きていけません。

水は大切なものだという知識は皆が当たり前のように持っていると思いますが、文明や技術の発達、進化によって水があることが当たり前で、水を無駄に使い、便利さを追求することで水質汚染を引き起こすことになったりと、水のありがたさを忘れてしまっていた人も多かったのではないのでしょうか。私もその中の一人だったと思います。

でもその一方で、これではいけないと思う人が現れ、反省点を踏まえ、工口活動や水質改善を試みる活動をする人達も多くなりました。私も水を流しっぱなしにしないとか、洗剤を使う時は最小限にとか小さいことから始めています。こういった小さなことでも個々の活動が広がれば大きな力になると思います。

最近改めて水のありがたさを感じたことがありました。それは、東日本大震災で被災された方が給水所で大勢の人が列をなし、ポリバケツを持って水を求めている姿をテレビ、新聞などで目にしたときです。私の住んでいる所は震災が起きた日も起こった後も何不自由なく水を使うことができています。水を求めている人をテレビなどで見るととても複雑な気持ちになりどうにか分けてあげられないものだと思うのと同時に、水のありがたさを改めて感じました。

今までの日本は蛇口をひねれば水が出るもので水が簡単に手に入っていました。しかし、世界の国々の中には日本のように便利でおいしい水が飲める所だけではありません。片道何キロも離れた所まで水をくみに何往復もする人々もいます。そのくみに行った水は衛生的なものとはいえません。そう考えると日本はとても水に恵まれている国だと思えます。

水が簡単に手に入ることが当たり前だと思う気持ちはいけないと思います。

水とは私達の生活と密接しています。切っても切り離せない大切なもので、私達に生命力を与えてくれるものだと思います。そう考えると水は神聖なもので大切に取り扱い扱わないといけないと思います。

私はこれからも水の無駄遣いをしないようにしたいし、海、川の水質汚染を防ぐために洗剤を減らしたりすることを続けたいです。

あと、水の大切さ、ありがたさをいろんな人に伝えていけるように努力したいと思います。

水の問題への貢献と人々の支え

近畿大学付属東広島高等学校・中学校 二年 小山 真澄

水は、いつの時代からできて、生物の命を支えたのだろう。地球が誕生し、水素と酸素が結びついてできたもの。それは今でも、私たちにとって、なくてはならないものである。それはどんなものなのだろうか。

水を飲む。それは、ヒトでも生物でも同じこと。だが、ヒトにはまだ水の使い道がたくさんある。お風呂、トイレ、洗顔、洗濯、農業、工業、電力など、たくさん使い道がある。けれども、この水が、次第に少なくなってきたのではないのだろうか。実質、水の出場所である、木、つまり森が切り倒されている。森がなくなれば、水は出てこなくなる。次第にそこは砂漠地となり、水がなくなる、という循環がここ最近、世界のどこかで起こっている。こんなことが、どうして起こるのだろうか。そこで、理科でも習う、「食物連鎖」を思い出してみよう。今回は人間や大きな動物から、つまり、逆からもをたどってみよう。

人間から魚などの様々な動物、そこから動物性の微生物、そして植物性の微生物、最終的に食べられるのは植物である。だが植物も、食べることはできないが、吸収できるものはある。それが水だ。水の出所はとなると、森林になるという仕組みなのだ。その森林が今、少なくなっているところが、まだたくさんある。だから、水は今、少なくなっているわけはこういうことなのだ。その影響で、植物が危険にさらされている。生態系が崩れれば、私たちがいつか、苦しむことになってしまうのではないだろうか。では、私たちが、どうすればよいのだろうか。その前に、水の循環というものを見てみよう。

水のスタート地点は森である。川で流れる間に、私たちへと水は運ばれる。その私たちが使った水が、海へと着き、やがて蒸発して雲になる。

その雲が雨をもたらす。また森にたどり着き、これの繰り返しとなる。その間で、今の現状で問題になっていることがある。それは、私たちが使った水の中にある。その中には、私たちが使って流してしまったゴミや、合成洗剤、化学物など、たくさん入っている。ゴミ、化学物が海に着けば、やがてヘドロ化となり、合成洗剤などは、雲にのぼり、酸性雨と化し、建物や、偉人などの銅像を溶かしてしまうのである。しかし、だからといって、合成洗剤などをなくすることはできないのである。ではどうすればよいのだろうか。

水も、そのままであれば、腐ってしまう。だから、私たちは、できるだけ、植物や、木を増やし、なくなってしまう森を、復活させてみてはどうだろうか。そして、汚染された水も、森林の土の中で、分解し、浄化が可能になる。そしてもう一つ、洗剤など、使う量を減らすこと。例えば、洗濯なら、まとめ洗いをするなど、それをするだけでも、だいぶ違うと思う。だけど、それだけでなく、他にも、浄水場やダムなど、支えてくれる人はたくさんいる。だから、その人たちにも感謝をして、一人一人が協力すれば、少し変えることはできるのではないのだろうか。私たちも、ただ消費するだけでなく、何か役に立つことをし、生産するべきではないのだろうかと思った。

水と生きる

近畿大学付属東広島高等学校・中学校 二年 坪島 幸生

「スーパーなどの各飲料水コーナーでは品切れが相次いでいます。」東北大震災の被災状況を説明するニュースでこの状況を説明された。

“水でたくさんの人々が亡くなり、その被災後には、たくさんの人々が水を必要とした。”
水って身近にあるけど、恐ろしい面があるという意外な事に気がついた。

しかし、水が大切だということ、恐ろしいものであるということ、今になって気付いたことではない。たぶん今までいろんな場面で聞いたことがあり、教えてもらったことがあるのだ。つまり、頭の中で分かっているけど、自分に起こっていること、自分の身近に起こっていることではないと、身にしみて感じる事ができなかったのだ。この出来事があって自分がそうであることに對して情けなくなった。

だからもう一度深く考えてみたいと思い、視野を広げてみた。

世界の発展途上国では、現に過酷な状況におかれ、その中でも水不足という大きな問題を抱えている。毎日のように水を探し、ようやくみつけた少量の泥水を家族と分け合いながら大切に飲んでいるのだ。私はそんな人々の精神をすばらしいと思った。今の日本に一番重要で大切な事なのではないかと思った。

私達の自国である日本は先進国であり、水道からあたり前のように、一日何十リットル何百リットルと使っているのだ。

しかし、決して水資源に余裕があるわけではないことを知った。それは、私が2年生の初めに行った温井ダムで学んだ事に、年々貯水池の水位が下がってきているということがあった。その時に、自分があせって

いるように感じた。それでもまだ発展途上国に比べれば余裕があるのだと感じた。

そして日本は、そんな発展途上国に青年海外協力隊、政府開発援助などの協力団体を送っている。よりよい生活を送るための手助けをしているのだ。例えば井戸だ。

地下まで何十メートルも掘り、できた水の水面近くの水をくみ上げるというものだ。

きっと今そのおかげで水不足の悩みは軽減されていることだろう。

また日本も今は特にたくさんの方から助けられている。これはいうまでもなく良いことだと思う。

水不足という問題を解決しようとすることにより、他国とつながっているという考え方もできる。しかし、私達は今一番考えなければならぬと思う。それは水を守る工夫だ。

私達にできる事は、小さな事から大きな事までさまざま。また、水の持っている性質もさまざま、特に人の恐怖の中へ引きずりこんでしまふ。だが、そんな時大事なものは、水の性質を理解し、一緒に生きていくことが大事だと思う。

私はそのためにも残り湯を再利用する、使う水を制限する、家庭排水を少なくするというなどを全てやっていきたいと思う。

国と国が共に助け合い生きていくように、人間と水も上手に共存していくことが必要なのではないだろうか。

「水」の大切さ

近畿大学付属東広島高等学校・中学校 二年 村上 航己

ぼくは、「水」というのは、すぐ身近にある物で、とても生活にかかせない物だというふうに考えています。例えば、料理、風呂、洗濯の時などに使います。また、のどが渴いたら、水を飲む時にも使います。今の日本では、蛇口をひねればすぐにきれいな水が出てきます。そして、今は、そういうことがあたりまえになっています。しかし、昔の日本ではどうだったでしょうか。ほかの国々ではどうなのでしょう。ぼくは、不思議になったので、本やインターネットを使って、調べてみました。

まず、昔の日本です。昔の日本は、今の日本のようにきれいな水をすぐに手に入れることができなかったのです。ふつうは、川の水を使って、洗濯などを行っていました。また、井戸を掘って、地下から水をくみ上げて、生活のために使っていました。きれいな水を大量にいつでも使うことはできなかったのです。とても不便だったと思います。

次は、日本以外の国です。アジア・アフリカを中心とした地域では、人口の増加、産業の発展、地球温暖化による気候の変化によって水不足になっています。また、水が足りないのです。アジア・アフリカを中心とした地域の子供たちは、汚い水を飲まなくてははいけません。そして、その飲んだ水のせいで病気にかかります。このような地域の人たちは水が足りないのです。水を求めて、ほか地域の人たちと紛争になったりしています。

もしも、この人たちのように水が足りなくて、自分が使いたい時に、全く使うことができなかったら、どうでしょうか。水を使うことができないければ、料理をしようにも思ってもまともにすることができないし、自

分の着ている服も洗うことができません。また、風呂に入って、自分の体を洗うこともできないし、のどが渴いても水を飲むことができません。だから、ぼくは、こうなったら、すぐ悩んで、苦しむと思います。

今の日本人は、蛇口をひねれば、きれいな水がすぐに出てくるので、水を大切にしようと思っていないと思います。なぜなら川を見てもみると、飲み終わったペットボトルや空き缶が落ちてあるし、多くの人々が手を洗う時や皿を洗う時に水を出しっぱなしにしているからです。ぼくは、このように水を大切にしないで、水を汚したり、一度に必要な量の水を使うことはいけないと思います。昔の日本人やアジアやアフリカなどの地域の水に困っている地域の人に対して、いけないと思います。

これから、ぼくは、水を大切にすることが大切だと思います。例えば、手を洗っている時に水を使わない時は水を出しておかないようにすることや、自分の靴を洗う時に、風呂の残り水を使ったりすることです。少しでも水を大切にすることがこれからの日本にとって重要だと思います。